(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2015 年 4 月 16 日(16.04.2015)

WIPO | PCT

(10) 国際公開番号
WO 2015/052944 A1

(51) 国際特許分類:
A45D 34/04 (2006.01) *B43K 8/20* (2006.01)

(21) 国際出願番号: PCT/JP2014/051976

(22) 国際出願日: 2014 年 1 月 29 日(29.01.2014)

(25) 国際出願の言語: 日本語

(26) 国際公開の言語: 日本語

(30) 優先権データ:
特願 2013-210836 2013 年 10 月 8 日(08.10.2013) JP

(71) 出願人: 株式会社トキワ (TOKIWA CORPORATION) [JP/JP]; 〒5080024 岐阜県中津川市桃山町３番２０号 Gifu (JP).

(72) 発明者: 田中　正弘 (TANAKA Masahiro); 〒3200017 埼玉県川口市栄町一丁目１９番２６号 株式会社トキワ内 Saitama (JP).

(74) 代理人: 長谷川　芳樹，外 (HASEGAWA Yoshiki et al.); 〒1000005 東京都千代田区丸の内二丁目１番１号丸の内　ＭＹ　ＰＬＡＺＡ（明治安田生命ビル）　９階　創英国際特許法律事務所 Tokyo (JP).

(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

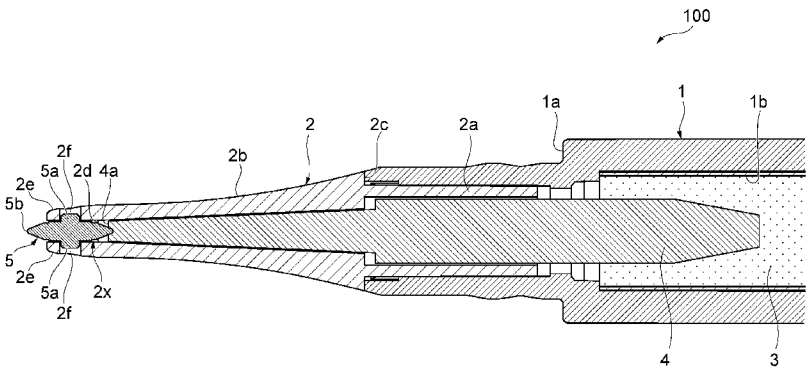
(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:
— 国際調査報告（条約第 21 条(3)）

(54) **Title**: APPLICATION-BODY-EQUIPPED COSMETIC CONTAINER

(54) 発明の名称 : 塗布体付き化粧料容器

[図4]



(57) **Abstract**: In this application-body-equipped cosmetic container, a liquid cosmetic accommodated therein is supplied, via an intermediate core, to an application body provided to a tip thereof, and the application body is used to apply the liquid cosmetic. The application body is disc shaped, is rotatably provided to a liquid-cosmetic outlet of the tip of the container, and is in contact with the intermediate core.

(57) 要約: 塗布体付き化粧料容器は、容器内に収容された液状化粧料を中継芯を介して容器先端に配置された塗布体に送り当該塗布体により液状化粧料を塗布する塗布体付き化粧料容器であって、塗布体は、容器先端の液状化粧料の出口に回転可能に配置され、中継芯に接触する円盤状の塗布体である。

WO 2015/052944 A1

明　細　書

発明の名称 ： 塗布体付き化粧料容器

技術分野

[0001] 本発明の一側面は、塗布体付き化粧料容器に関する。

背景技術

[0002] 従来、アイライナーを描く塗布具として、以下の特許文献１のものが知られている。この塗布具では、容器内にアイライナー液を含浸させた中綿が収容され、ポリエステル繊維等をウレタン樹脂等で固めた筆先のその後端部が中綿に差し込まれると共に、当該筆先の中心位置に軸線方向に沿って貫通孔が形成されている。この貫通孔内に、合成樹脂から成る糸材を束ねて形成した糸状部材（塗布体）が集束されると共に、この糸状部材の先端が容器外へ所定長突出する構成とされている。この塗布具では、中綿に含浸されたアイライナー液が糸状部材を介して当該糸状部材の尖った先端に伝わり、この尖った先端により瞼に細い線のアイラインを描くことができる。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特許第４３９２８４７号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] しかしながら、このように尖った先端でアイラインを引くと、先端が瞼に引っ掛かることがあり、皮膚が引っ張られ良好な使用感が得られないと共に、線が飛び飛びになって綺麗に描けないという問題がある。

[0005] そこで、本発明の一側面は、皮膚が引っ張られることがなく使用感を向上できると共に、線が飛び飛びになることがなく線を綺麗に描くことができる塗布体付き化粧料容器を提供する。

課題を解決するための手段

[0006] 本発明の一側面に係る塗布体付き化粧料容器は、容器内に収容された液状

化粧料を中継芯を介して容器先端に配置された塗布体に送り当該塗布体により液状化粧料を塗布する塗布体付き化粧料容器であって、塗布体は、容器先端の液状化粧料の出口に回転可能に配置され、中継芯に接触する円盤状の塗布体である。

[0007] このような塗布体付き化粧料容器によれば、塗布体が、容器内の液状化粧料を送り出す中継芯に接触すると共に容器先端の液状化粧料の出口に配置され、この塗布体が円盤状を成し塗布の際に回転して線を描く。すなわち、塗布の際に円盤状の塗布体が回転するため、従来生じていた引っ掛かりが抑止される。その結果、皮膚が引っ張られることがなく使用感を向上できると共に、線が飛び飛びになることがなく線を綺麗に描くことができる。

[0008] ここで、円盤状の塗布体は、凸レンズ状であってもよい。この場合、例えばアイライナーやアイブロウ等の細い線を描くのに適合する。

[0009] また、円盤状の塗布体は、その外周面に、周方向に沿って液溜まり用の溝を環状に備えていてもよい。この場合、塗布の際に、液溜まり用の溝により液状化粧料の含みが良い。その結果、線を一層綺麗に描くことができる。

[0010] また、円盤状の塗布体は、円環状の外周部と、当該外周部より内周側の空間部と、を有していてもよい。この場合、円環状の外周部より内周側の空間部には液状化粧料が付着しないため、塗布の際に塗布体が皮膚に沈み込む（めり込む）場合でも、皮膚に塗布される液状化粧料は、円環状の外周部の液状化粧料のみである。従って、ばらつきのない所望の一定太さの線（一定で細い線）を常に描くことができる。

[0011] また、塗布体と中継芯との間に、中継芯より柔らかい第２の中継芯が介在していてもよい。この場合、第２の中継芯が適度な力で常に塗布体に接触し、当該塗布体の回転を妨げることなく、液状化粧料を塗布体に確実に転写できる。

発明の効果

[0012] このように本発明の一側面によれば、皮膚が引っ張られることがなく使用感を向上できると共に、線が飛び飛びになることがなく線を綺麗に描くこと

ができる塗布体付き化粧料容器を提供できる。

図面の簡単な説明

[0013] [図1]第１実施形態に係る塗布体付き化粧料容器の外観を示す斜視図である。

[図2]図１の状態からキャップを取り外した状態を示す斜視図である。

[図3]図１に示す塗布体付き化粧料容器の縦断斜視図である。

[図4]図３中の要部の縦断面図である。

[図5]図４中の塗布体の斜視図である。

[図6]図５に示す塗布体の側面図である。

[図7]第２実施形態に係る塗布体付き化粧料容器の要部を示す縦断面図である。

[図8]第３実施形態に係る塗布体付き化粧料容器を示す一部破断斜視図である。

[図9]図８中の樹脂バネ付き先筒及び中継芯を示す一部破断斜視図である。

[図10]図９中の樹脂バネ付き先筒を示す斜視図である。

[図11]第４実施形態に係る塗布体付き化粧料容器の塗布体を示す斜視図である。

[図12]図１１に示す塗布体の側面図である。

[図13]第５実施形態に係る塗布体付き化粧料容器の塗布体を示す斜視図である。

[図14]図１３に示す塗布体の側面図である。

[図15]第６実施形態に係る塗布体付き化粧料容器の塗布体を示す斜視図である。

[図16]図１５に示す塗布体の側面図である。

発明を実施するための形態

[0014] 以下、塗布体付き化粧料容器の実施形態について図１～図１６を参照しながら説明する。図１～図６は、第１実施形態を、図７は、第２実施形態を、図８～図１０は、第３実施形態を、図１１及び図１２は、第４実施形態を、図１３及び図１４は、第５実施形態を、図１５及び図１６は、第６実施形態

を各々示すものである。

[0015] 先ず、図１～図６に示す第１実施形態を説明する。図１～図４は、第１実施形態に係る塗布体付き化粧料容器を示す各図、図５及び図６は、塗布体を示す各図である。

[0016] 本実施形態の塗布体付き化粧料容器は、液状化粧料を被塗布部である皮膚等に塗布する際に用いられるものである。本実施形態の塗布体付き化粧料容器は、特に、アイライナーのように瞼に細い線を描いたり、アイブロウのように眉毛の細い線を描くのに適合するものである。

[0017] 図１～図３に示すように、塗布体付き化粧料容器１００は、容器外郭を構成する容器本体１及び先筒２と、容器本体１内に収容された中綿３と、容器本体１及び先筒２内に収容された中継芯４と、先筒２の先端に装着された塗布体５と、を概略備える。

[0018] 容器本体１は、例えばＰＰ等から形成され、先細の段付き円筒状に構成される。図３に示すように、容器本体１の段差部１ａより後側の筒孔は、液状化粧料を収容するための収容部１ｂとされる。この収容部１ｂに、液状化粧料を含浸した中綿３が充填される。中綿３は、アジャスター６によりそのサイズが調節可能とされている。容器本体１の後端の開口は、尾栓７を容器本体１に装着することにより、閉じられている。

[0019] 先筒２は、例えばＰＰ等から形成されている。先筒２は、図２～図４に示すように、後半部２ａが円筒状に構成されると共に、これより前側が扁平筒状部２ｂとされている。扁平筒状部２ｂは、後半部２ａに対し段差部２ｃを介して外面が拡径されて横断面（軸線方向に直交する断面）略長方形の４角筒形状を呈する。これと共に、扁平筒状部２ｂは、この横断面４角筒形状の長径側及び短径側の外面の両方が先端へ行くに従い多少内側に湾曲しながら小さくなっていく先細り形状とされている。扁平筒状部２ｂの扁平な筒孔と後半部２ａの円形の筒孔とは、扁平な筒孔の長径側の径と円形の筒孔の径とが一致する（図３参照）。扁平な筒孔の短径側の径は、段差を介して円形の筒孔の径より小さくされている（図４参照）。

[0020] 図２及び図４に示すように、先筒２の先端の開口である出口２ｘが液状化粧料の出口とされている。先筒２は、開口縁の短径側（図４の上下方向）に、長径側（図４の紙面垂直方向）の開口縁２ｄよりも前方に突出する突出部２ｅを、一対対向して備える。突出部２ｅには、塗布体５を回転可能に支持するための支持穴２ｆが、短径方向に貫くようにそれぞれ設けられている。

[0021] 先筒２は、円筒状の後半部２ａが、容器本体１の円筒状の先端部の筒内に進入し、その段差部２ｃが容器本体１の先端面に突き当たり、この状態で、容器本体１に回転不能且つ軸線方向移動不能に装着される。また、この状態で、容器本体１の筒孔と先筒２の筒孔は連通した状態にある。

[0022] 中継芯４は、例えばポリエステルやナイロン等を糊で固めて研磨したものである。中継芯４は、軸線方向に延在している。図３及び図４に示すように、中継芯４は、容器本体１及び先筒２の筒孔内に配置されている。中継芯４は、その後端側の部分が中綿３に差し込まれる。これと共に、中継芯４の先端側の部分は、先筒２の先端の出口２ｘへ向かうように延びている。中継芯４は、毛細管現象により中綿３の液状化粧料を吸い上げ当該中継芯４の先端へ供給する。

[0023] 塗布体５は、例えばＰＯＭ等から形成され、図５及び図６に示すように、円盤状に構成される。円盤状の塗布体５は、ここでは、凸レンズ状とされている。塗布体５は、中心軸の位置に、その外面から軸線方向外側へ突出する軸部５ａをそれぞれ備える。

[0024] なお、塗布体５は、第１実施形態及び後述の第２～第６実施形態において、皮膚への塗布の際に痛くないように、その塗布面となる外周面５ｂが先鋭ではなく、Ｒ状の丸味を帯びた形状とされている。

[0025] 円盤状の塗布体５は、図４に示すように、先筒２の対向する突出部２ｅ，２ｅ同士を短径方向に多少押し広げながら、突出部２ｅ，２ｅ同士間に押し込まれ、その軸部５ａ，５ａが先筒２の支持穴２ｆ，２ｆに進入する。これにより、先筒２の先端部に回転可能に支持される。そして、円盤状の塗布体５は、その外周面５ｂが、中継芯４の先端面４ａに適度な力で接触した状態

にある。塗布体５の軸部５ａを除く厚みと中継芯４の先端の幅とは、略同一とされている。これにより、容器のコンパクト化が図られている。

[0026] なお、塗布体５を、中心軸と当該中心軸以外の円盤部分との２部品とし、中心軸以外の円盤部分に中心軸を嵌着して一体化するように構成しても良い。この場合、中心軸を例えばＰＯＭ等から形成し、円盤部分をナイロンやポリエステル等から形成する構成が挙げられる。

[0027] 容器先端には、図１及び図３に示すように、塗布体５等を保護するための有底円筒形状のキャップ１０が、着脱自在に装着される。キャップ１０内には、さらに内キャップ１０ａが設けられている。これらのキャップ１０及び内キャップ１０ａは、例えばＰＰ等から形成される。内キャップ１０ａは、有底円筒形状の収容部１０ｂを有している。内キャップ１０ａは、キャップ１０が容器本体１の先端に装着されたときに、収容部１０ｂ内に円盤状の塗布体５を収容する。収容部１０ｂは、キャップ１０内の空間を埋めて空気残量を少なくし揮発を抑えるのに寄与する。キャップ１０を容器本体１の先端に装着し、キャップ１０と容器本体１の先端とを嵌合することにより、容器内の気密が保たれる。

[0028] このように構成された塗布体付き化粧料容器１００では、中綿３に含浸された液状化粧料は、毛細管現象により中継芯４を通してその先端面４ａに送り出され、先端面４ａに接触している塗布体５の外周面５ｂに転写される。

[0029] この状態で、例えばアイライナーやアイブロウのように皮膚に細い線を描く場合には、塗布体５を皮膚に押し当てた状態で、例えば筆で描くように塗布体付き化粧料容器１００を皮膚に沿って移動させる。

[0030] すると、円盤状の塗布体５が回転し、この回転する塗布体５により液状化粧料が皮膚に転写され細い線が描かれる。

[0031] このように、本実施形態においては、塗布体５が、容器内の液状化粧料を送り出す中継芯４に接触すると共に容器先端の液状化粧料の出口２ｘに配置され、この塗布体５が円盤状を成し塗布の際に回転して線を描く。すなわち、塗布の際に円盤状の塗布体５が回転するため、従来生じていた引っ掛かり

が抑止される。その結果、皮膚が引っ張られることがなく使用感を向上できると共に、線が飛び飛びになることがなく線を綺麗に描くことができる。

[0032] また、円盤状の塗布体５が凸レンズ状のため、アイライナーやアイブロウ等の細い線を描くことに適合できる。

[0033] 図７は、第２実施形態に係る塗布体付き化粧料容器の要部を示す縦断面図である。

[0034] 第２実施形態の塗布体付き化粧料容器２００が、第１実施形態の塗布体付き化粧料容器１００と違う点は、塗布体５と中継芯４との間に、中継芯４より柔らかい第２の中継芯８を介在させた点である。第２の中継芯８は、中継芯４より柔らかい材質から成る。第２の中継芯８は、ここでは、例えばスポンジとされている。

[0035] このような第２実施形態によれば、塗布体５と中継芯４との間に、中継芯４より柔らかい第２の中継芯８が介在しているため、第２の中継芯８が適度な力で常に塗布体５に接触し、当該塗布体５の回転を妨げることなく、液状化粧料を塗布体５に確実に転写できる。

[0036] 図８は、第３実施形態に係る塗布体付き化粧料容器を示す一部破断斜視図、図９は、図８中の樹脂バネ付き先筒及び中継芯を示す一部破断斜視図、図１０は、図９中の樹脂バネ付き先筒を示す斜視図である。

[0037] 第３実施形態の塗布体付き化粧料容器３００が、第１実施形態の塗布体付き化粧料容器１００と違う点は、第１実施形態の先筒２に代えて、樹脂バネ付き先筒２２を用いた点である。

[0038] 樹脂バネ付き先筒２２は、第１実施形態の先筒２の後端から樹脂バネ１２が後方へ延びる構成である。樹脂バネ付き先筒２２は、例えばＰＰ等による一体成形品である。樹脂バネ１２は、螺旋状のスリット１２ａを備え二条螺子状に構成されている。そして、第３実施形態では、図９に示すように、中継芯４の後部の外周面が、段差部４ｂを介して前側より拡径されている。この拡径された外周面に、樹脂バネ１２の後端部の内周面が固着されている。

[0039] このような第３実施形態によれば、樹脂バネ１２が中継芯４を前方へ付勢

し当該中継芯４の先端面４ａを塗布体５の外周面５ｂに押し当てるため、中継芯４が適度な力で常に塗布体５に接触し、当該塗布体５の回転を妨げることなく、液状化粧料を塗布体５に確実に転写できる。

[0040] なお、樹脂バネ１２と同様な作用を奏すれば、樹脂バネ１２以外の弾性体を用いても勿論良い。

[0041] 図１１は、第４実施形態に係る塗布体付き化粧料容器の塗布体を示す斜視図、図１２は、図１１に示す塗布体の側面図である。

[0042] この第４実施形態の塗布体１５が、第１実施形態の塗布体５と違う点は、円盤状の塗布体の外周面に、周方向に沿って液溜まり用の溝１５ｂを環状に備えた点である。

[0043] このような第４実施形態によれば、塗布の際に、液溜まり用の溝１５ｂより液状化粧料の含みが良い。その結果、線を一層綺麗に描くことができる。

[0044] 図１３は、第５実施形態に係る塗布体付き化粧料容器の塗布体を示す斜視図、図１４は、図１３に示す塗布体の側面図である。

[0045] この第５実施形態の塗布体２５が、第１実施形態の塗布体５と違う点は、円盤状の塗布体が、円環状（リング状）の外周部２５ａと、当該外周部２５ａより内周側の空間部２５ｂと、を備えた点である。

[0046] 空間部２５ｂは、軸部５ａを有する円柱状の中央部２５ｃに対して、円環状の外周部２５ａを、周方向に離間する複数（ここでは３個）の支持リブ２５ｄで支持させる構成とする。これにより、空間部２５ｂは、支持リブ２５ｄ，２５ｄ同士の間に形成されている。

[0047] このような第５実施形態によれば、円環状の外周部２５ａより内周側の空間部２５ｂには液状化粧料が付着しないため、塗布の際に塗布体２５が皮膚に沈み込む（めり込む）場合でも、皮膚に塗布される液状化粧料は、円環状の外周部２５ａに転写された液状化粧料のみである。従って、ばらつきのない所望の一定太さの線（一定で細い線）を常に描くことができる。

[0048] なお、支持リブ２５ｄは、円環状の外周部２５ａより軸線方向内側にへこみ（図１３の上下方向にへこみ）逃げている。そのため、この支持リブ２５

ｄに液状化粧料が付着することはない。

[0049] 因みに、円盤状の塗布体に空間部２５ｂを設けず、円環状の外周部２５ａより内周側の部分の軸線方向厚さを、円環状の外周部２５ａの軸線方向厚さより薄くした（軸線方向内側にへこませた）塗布体としても良い。このような構成を採用した場合、円環状の外周部２５ａより内周側の部分が、上記支持リブ２５ｄと同様に、外周部２５ａに対して軸線方向内側にへこみ逃げている。そのため、塗布の際に塗布体が皮膚に沈み込む場合でも、皮膚に塗布される液状化粧料は、円環状の外周部２５ａの液状化粧料のみである。従って、図１３及び図１４に示す塗布体２５と同様に、ばらつきのない所望の一定太さの線を常に描くことができる。

[0050] 図１５は、第６実施形態に係る塗布体付き化粧料容器の塗布体を示す斜視図、図１６は、図１５に示す塗布体の側面図である。

[0051] この第６実施形態の塗布体３５が、第１実施形態の塗布体５と違う点は、円盤状の塗布体の外周面５ｂに、周方向に沿って凹部３５ｃ、凸部３５ｄが連続する凹凸部３５ｂを設けた点である。

[0052] このような第６実施形態によれば、塗布体３５の凹凸部３５ｂに液状化粧料が付着し、特に凹部３５ｃに睫毛が入り込むため、睫毛と睫毛との間に凸部３５ｄにより液状化粧料を塗布するのが容易である。

[0053] 以上、本発明の一側面をその実施形態に基づき具体的に説明したが、上記実施形態に限定されるものではない。例えば、上記実施形態においては、液状化粧料を含浸した中綿３を容器本体１内に収容し、液状化粧料を中綿３から中継芯４を介して塗布体５，１５，２５に供給する中綿式を採用しているが、中綿３がなく液状化粧料を容器本体１内に直接充填し蛇腹構造により液状化粧料の流量をコントロールしながら中継芯４を介して塗布体５，１５，２５に供給する直液式を採用しても良い。この蛇腹構造の場合、中継芯４として、例えばアクリル樹脂等を用いることができる。

[0054] また、上記実施形態においては、容器本体１と先筒２を別部品としているが、一体品の容器としても勿論良い。

産業上の利用可能性

[0055] 本発明の一側面によれば、皮膚が引っ張られることがなく使用感を向上できると共に、線が飛び飛びになることがなく線を綺麗に描くことができる塗布体付き化粧料容器を提供できる。

符号の説明

[0056] １…容器本体、２，２２…先筒、４…中継芯、５，１５，２５，３５…塗布体、８…第２の中継芯、１５ｂ…液溜まり用の溝、２５ａ…円環状の外周部、２５ｂ…空間部、１００，２００，３００…塗布体付き化粧料容器。

請求の範囲

[請求項1] 容器内に収容された液状化粧料を中継芯を介して容器先端に配置された塗布体に送り当該塗布体により前記液状化粧料を塗布する塗布体付き化粧料容器であって、

前記塗布体は、前記容器先端の前記液状化粧料の出口に回転可能に配置され、前記中継芯に接触する円盤状の塗布体である、塗布体付き化粧料容器。

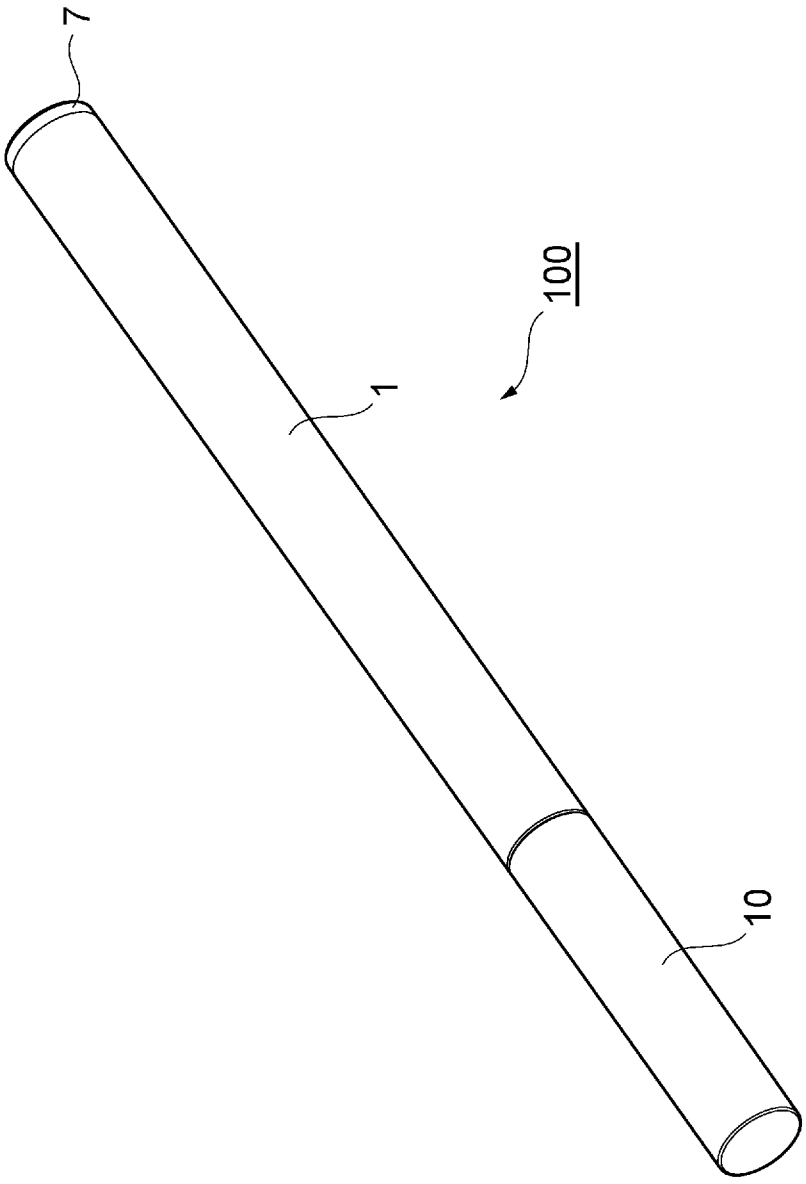
[請求項2] 前記円盤状の塗布体は、凸レンズ状である、請求項１記載の塗布体付き化粧料容器。

[請求項3] 前記円盤状の塗布体は、その外周面に、周方向に沿って液溜まり用の溝を環状に備える、請求項１記載の塗布体付き化粧料容器。

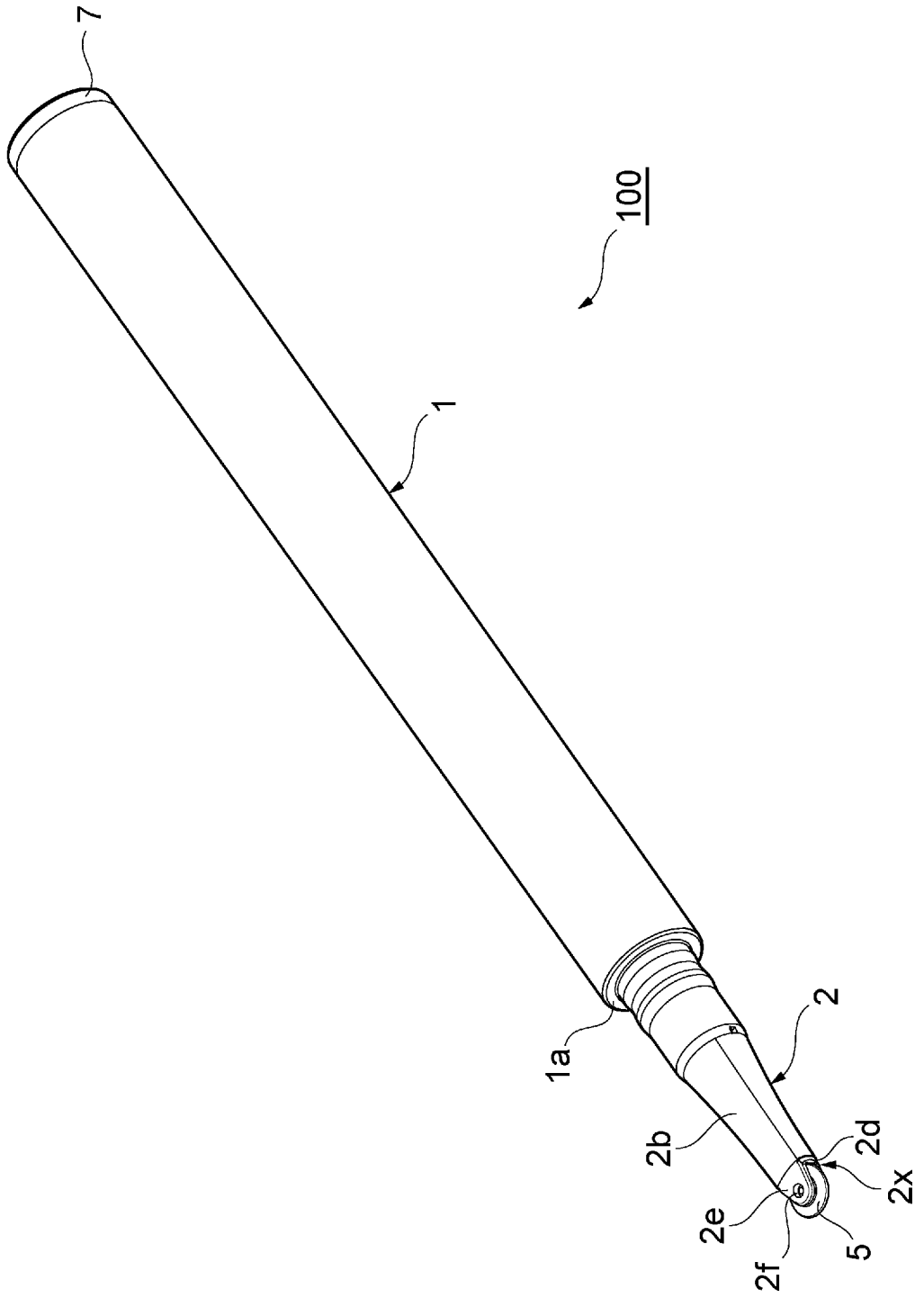
[請求項4] 前記円盤状の塗布体は、円環状の外周部と、当該外周部より内周側の空間部と、を有する、請求項１記載の塗布体付き化粧料容器。

[請求項5] 前記塗布体と前記中継芯との間に、前記中継芯より柔らかい第２の中継芯が介在している、請求項１～４の何れか一項に記載の塗布体付き化粧料容器。

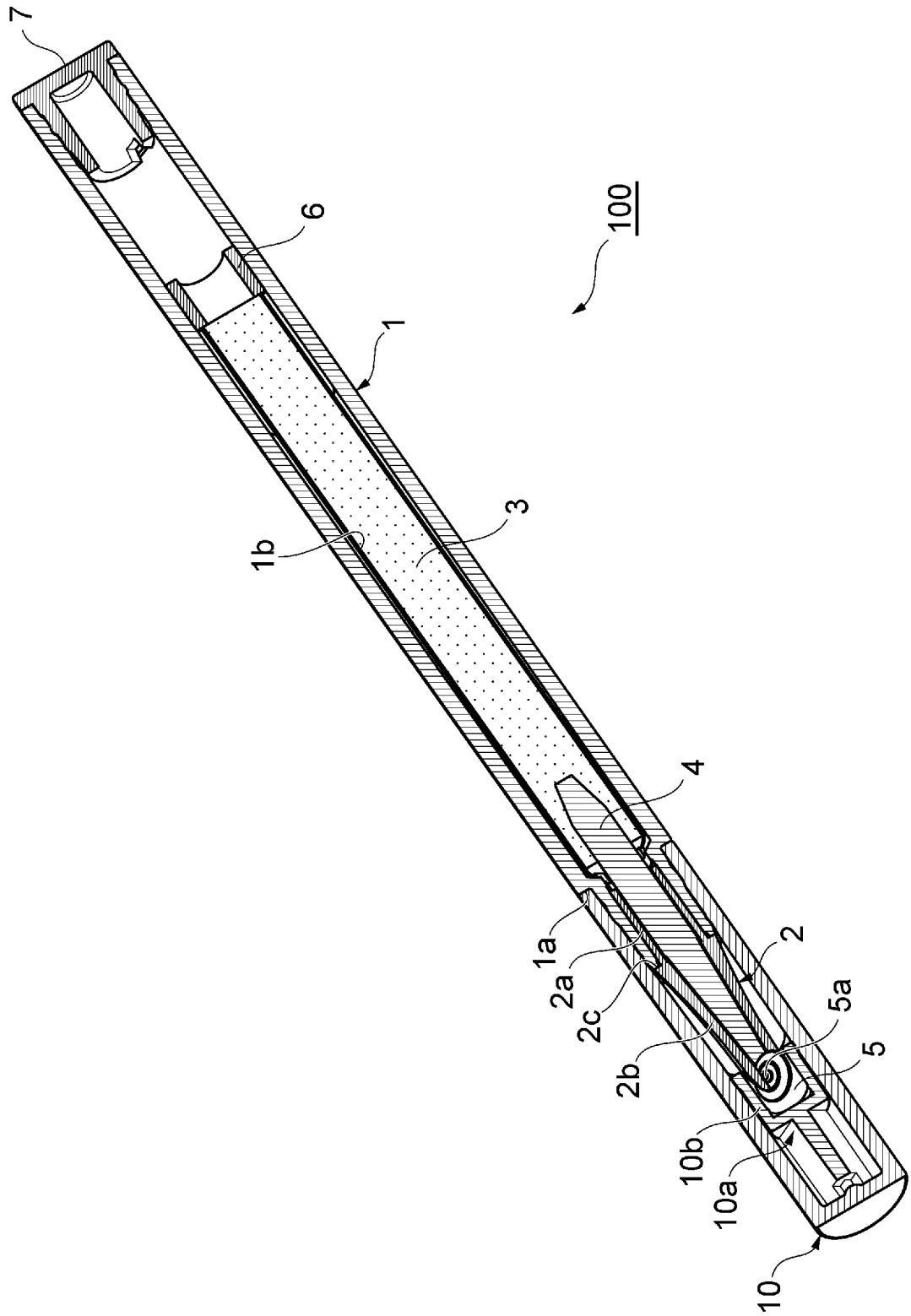
[図1]



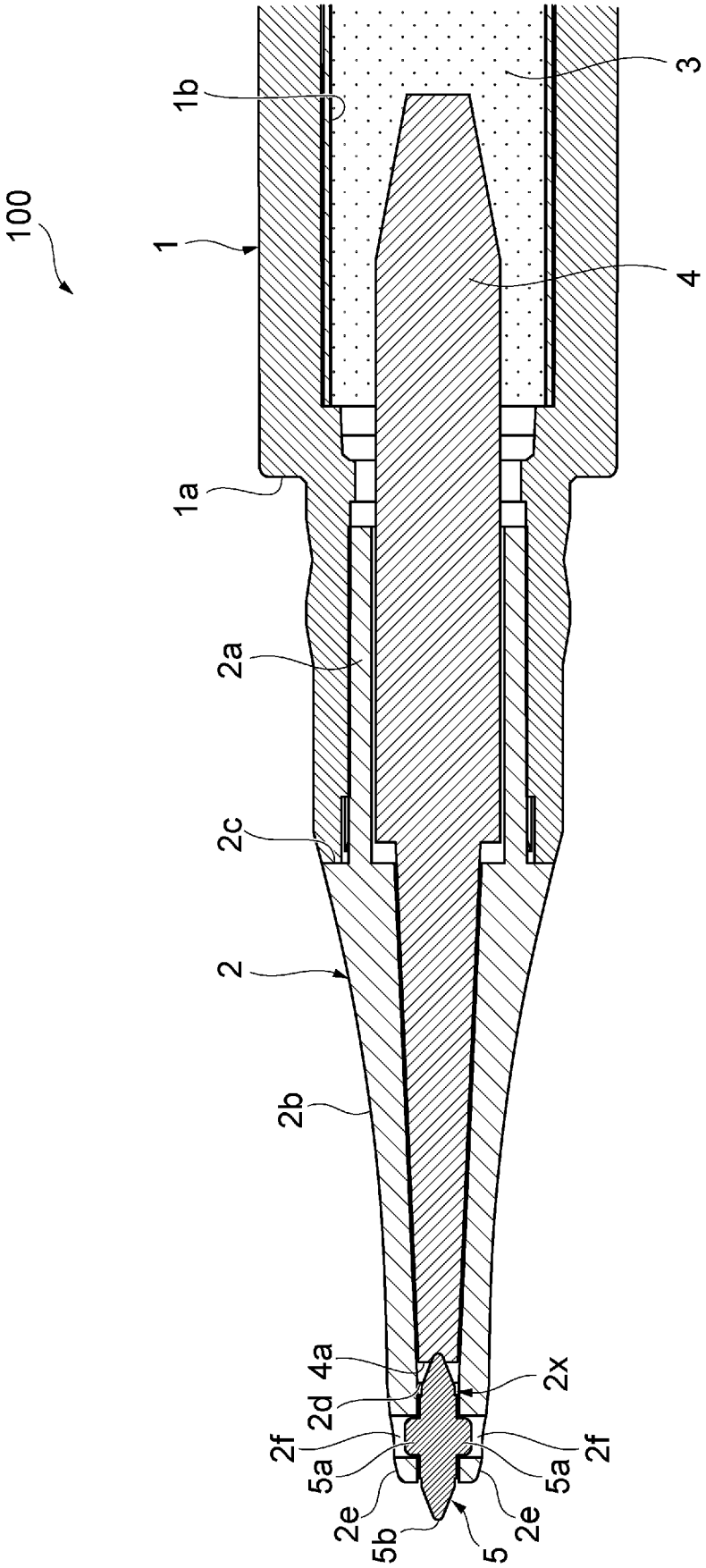
[図2]



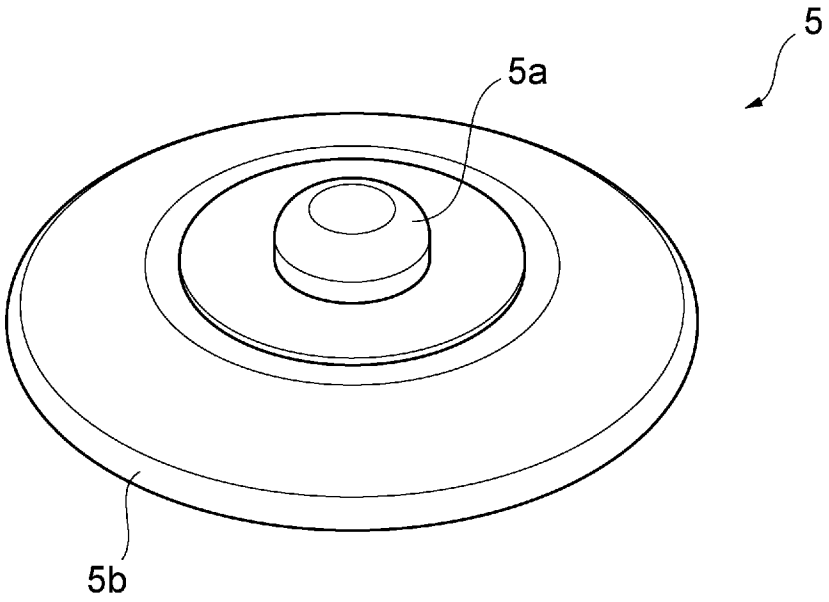
[図3]



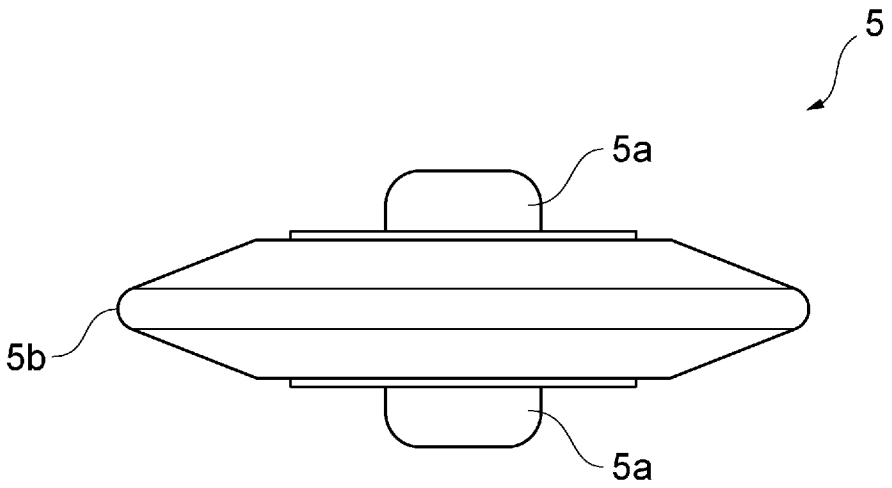
[図4]



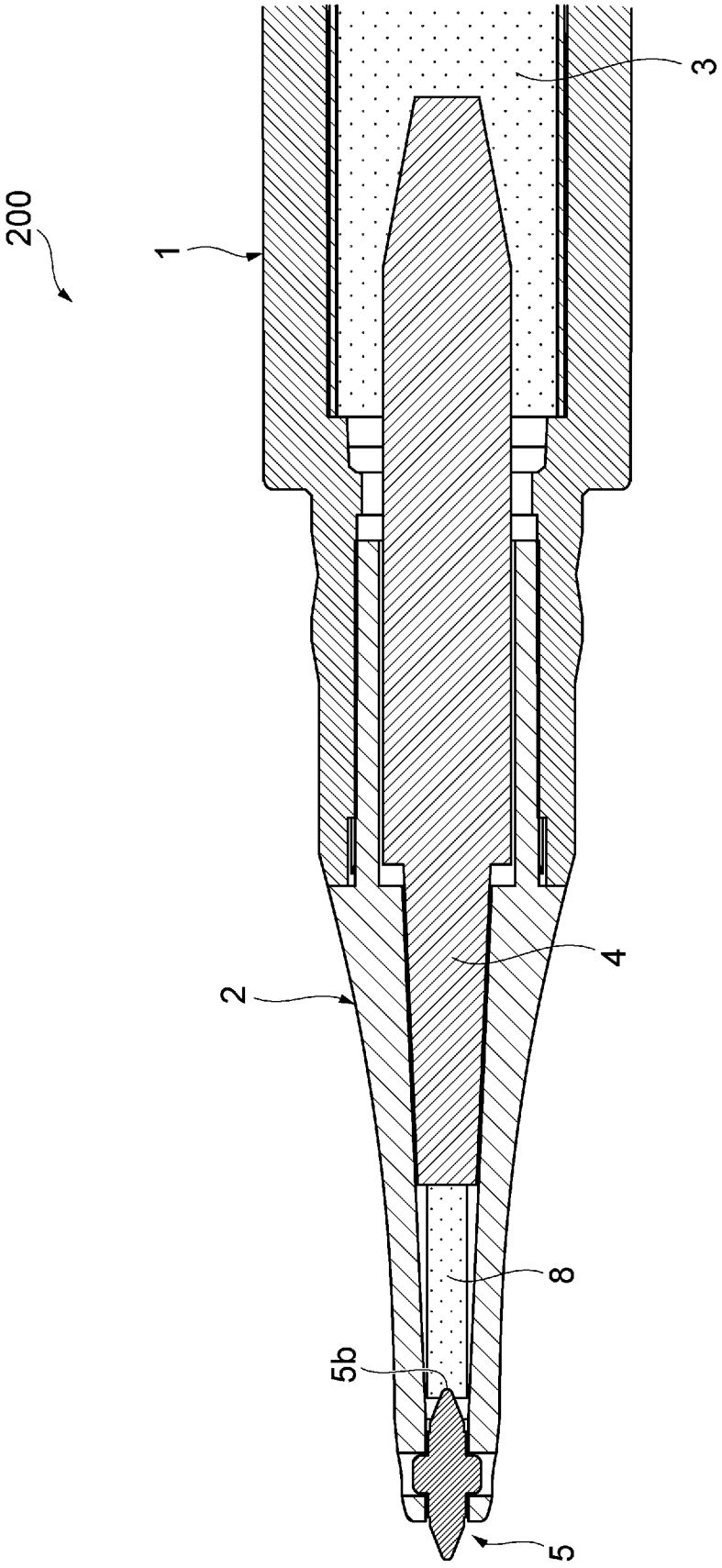
[図5]



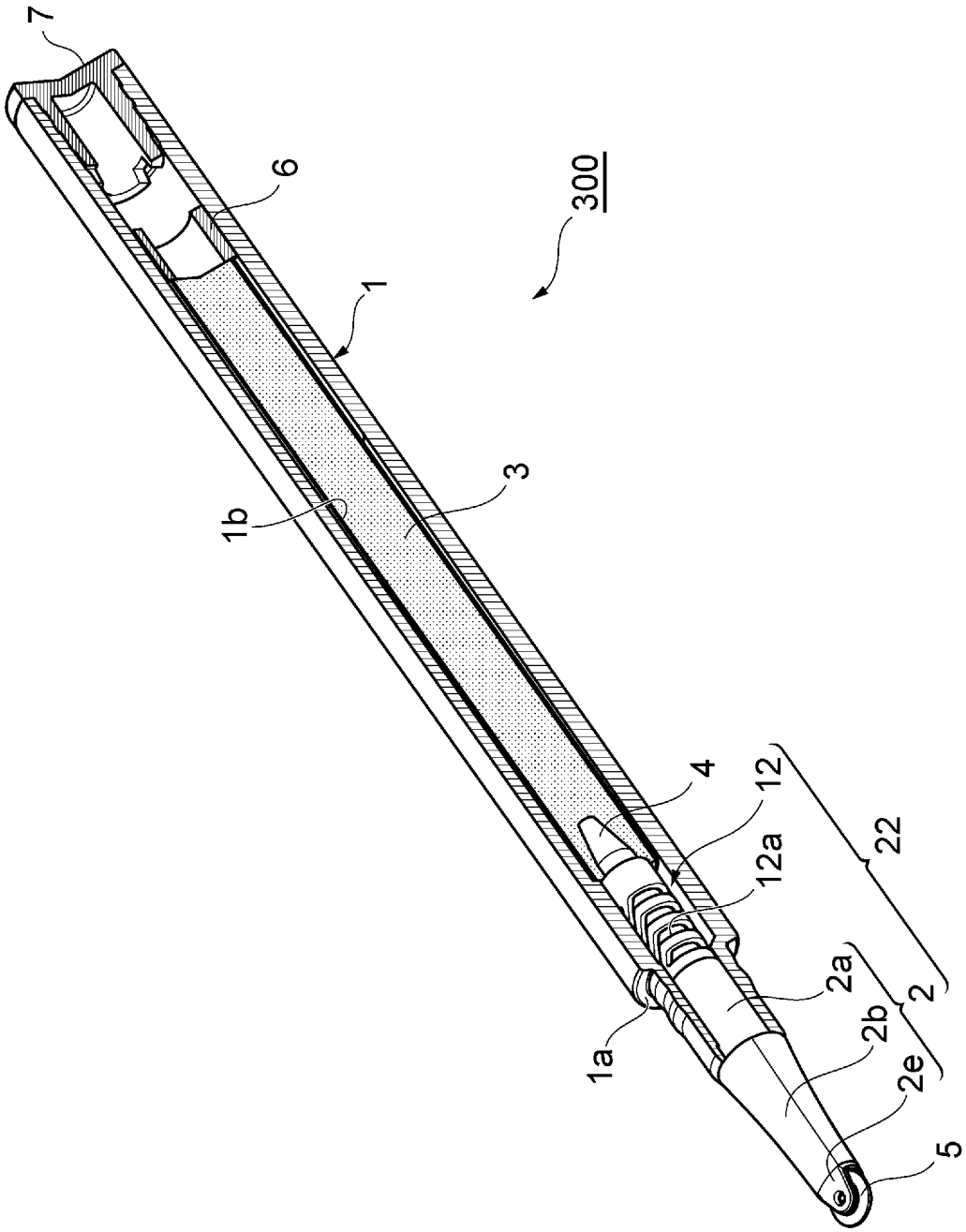
[図6]



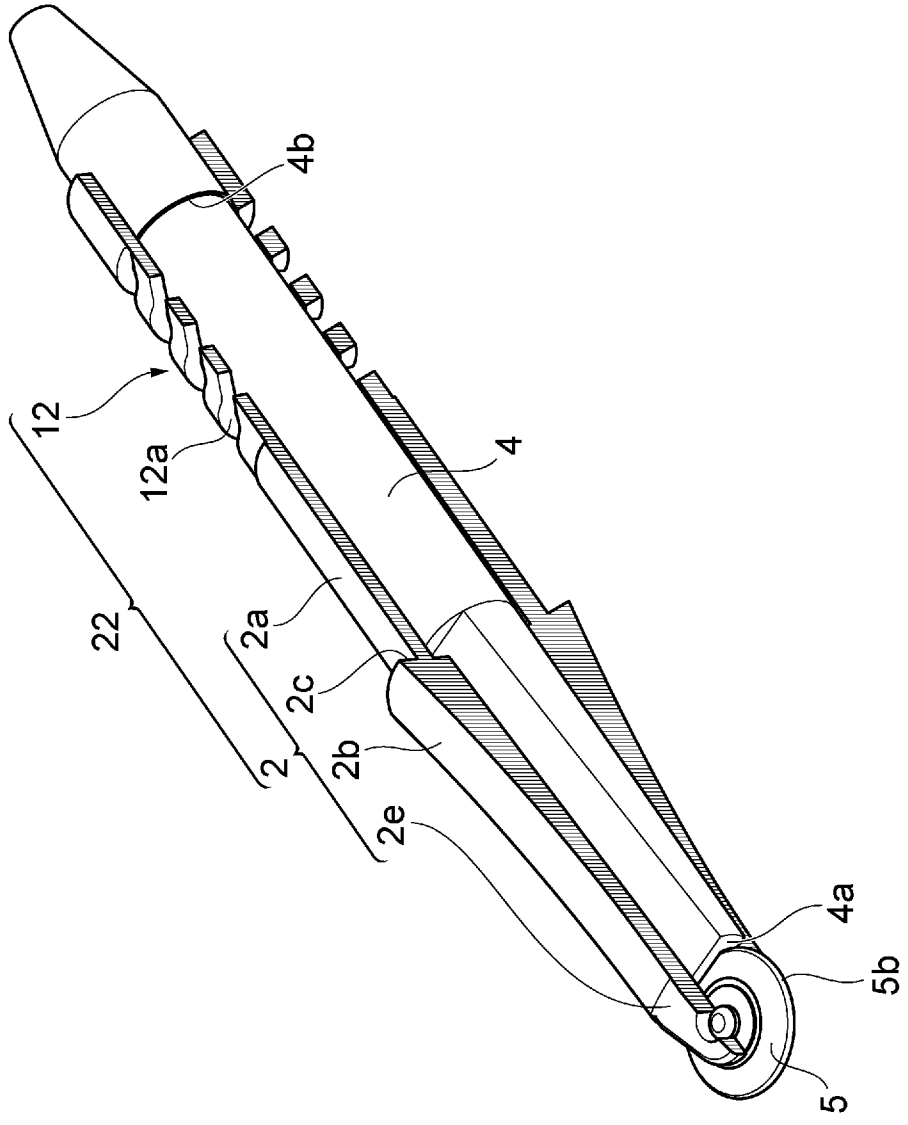
[図7]



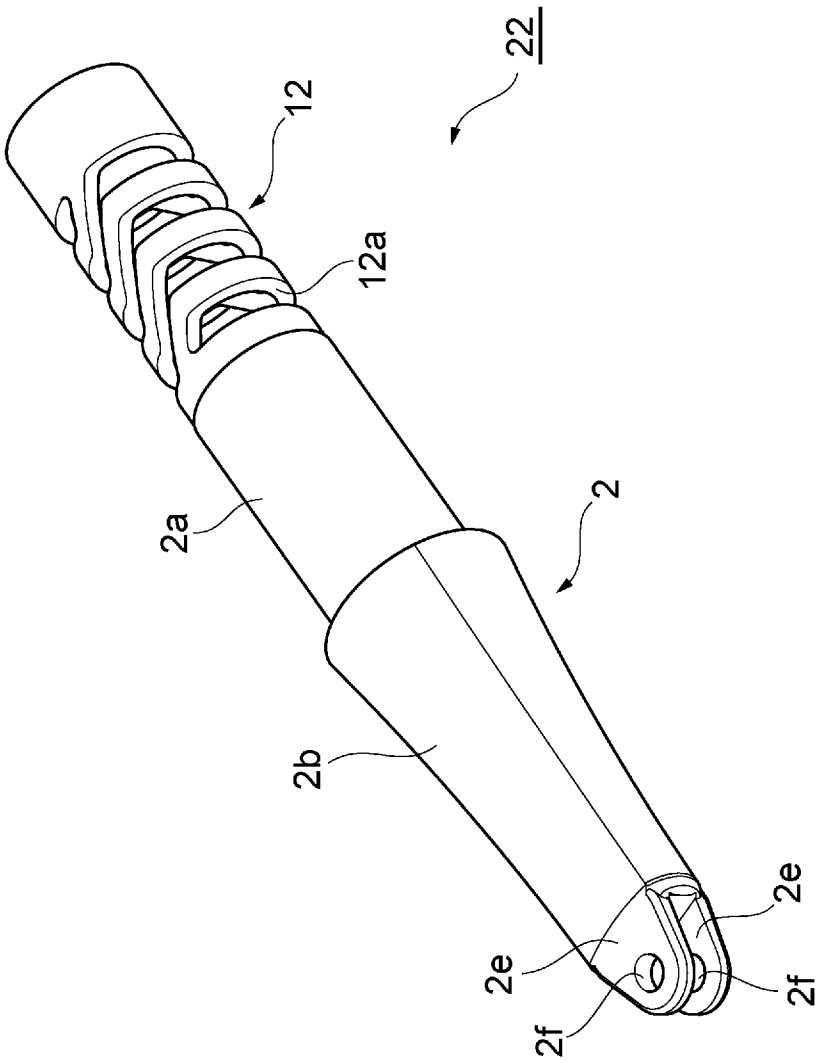
[図8]



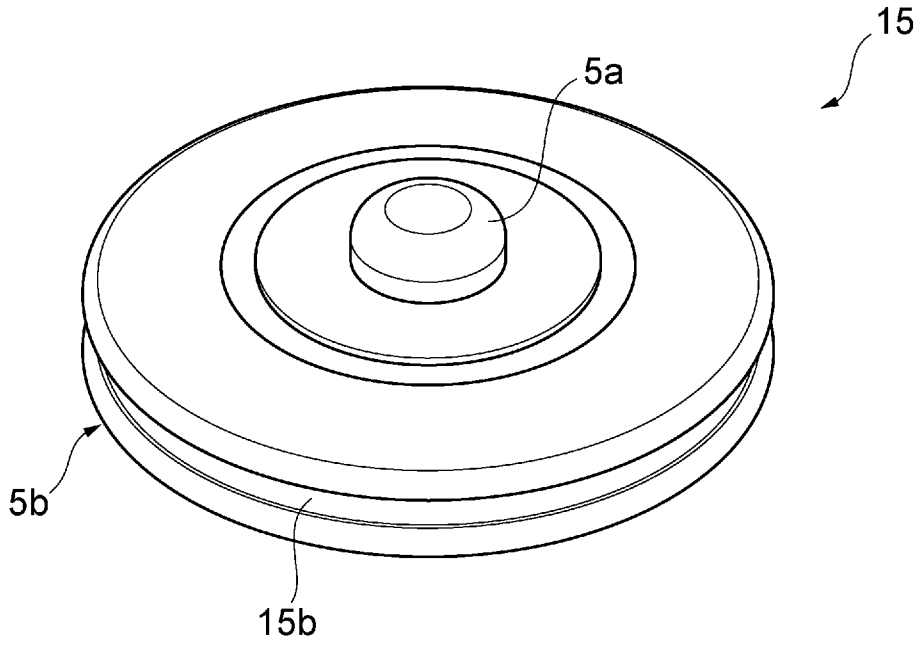
[図9]



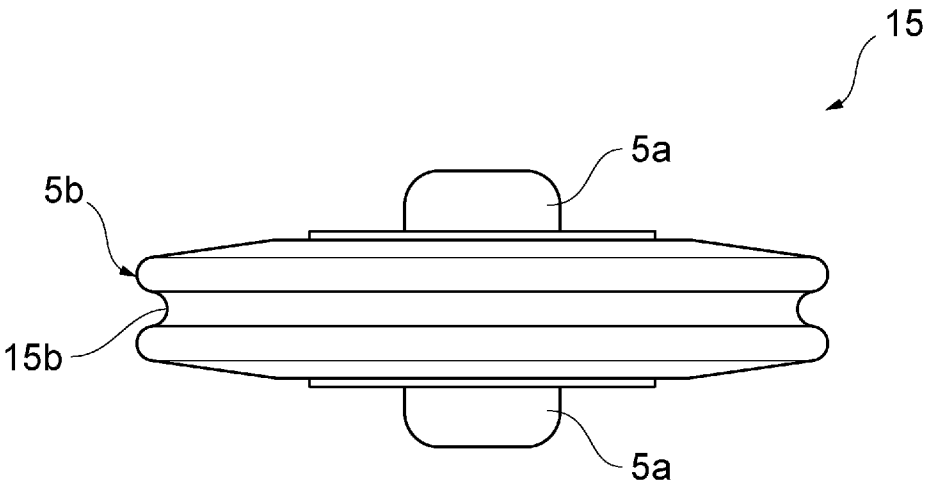
[図10]



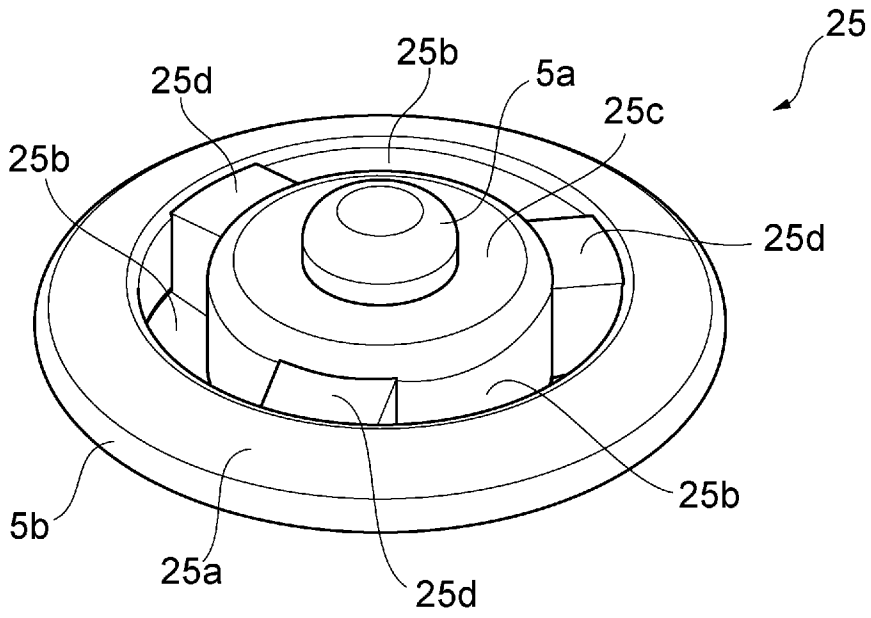
[図11]



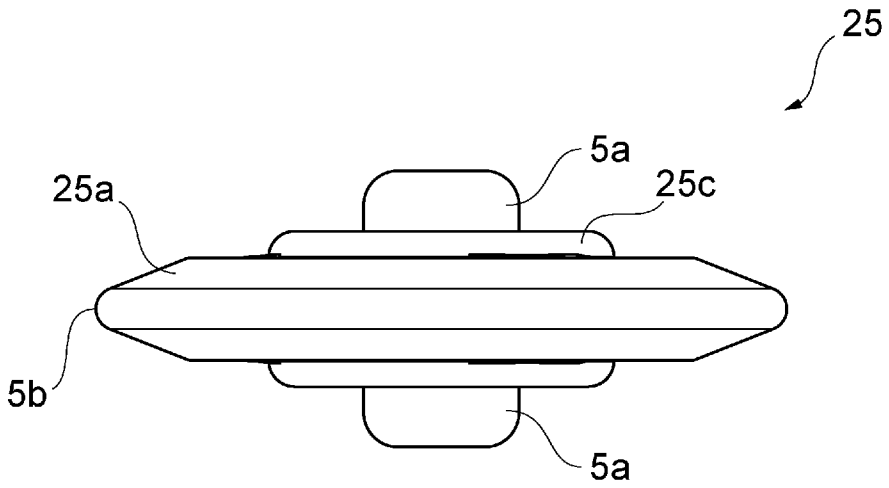
[図12]



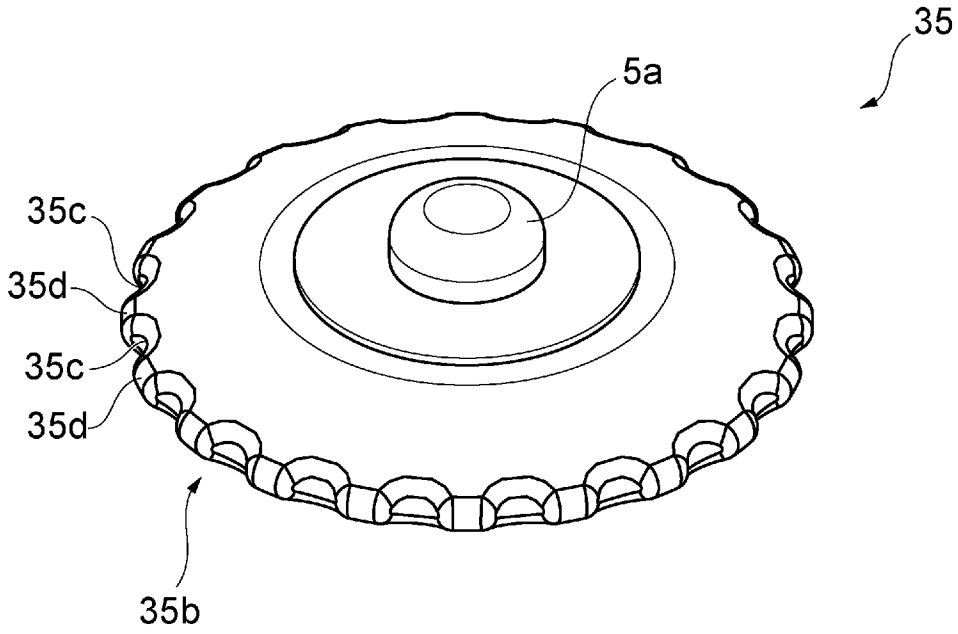
[図13]



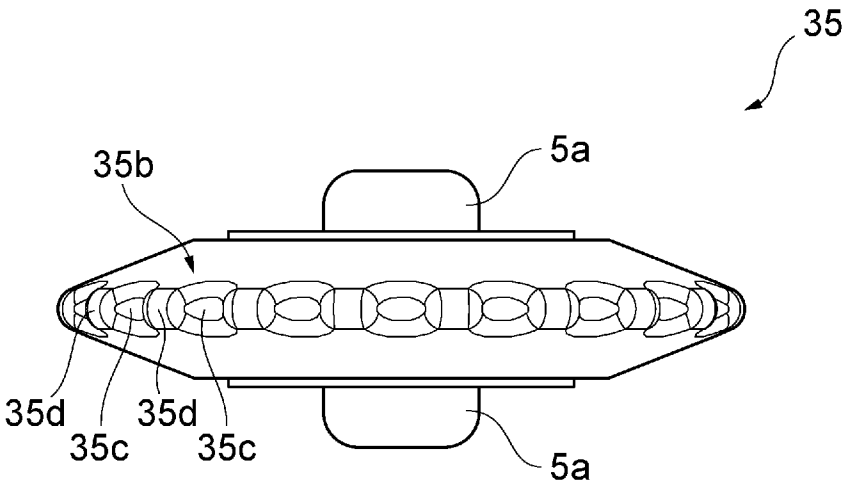
[図14]



[図15]



[図16]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2014/051976

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER
A45D34/04(2006.01)i, *B43K8/20*(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)
A45D34/04, B43K8/20

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2014
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2014	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2014

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X Y A	US 2004/0129284 A1 (Aline Abergel), 08 July 2004 (08.07.2004), paragraphs [0006], [0046] to [0049], [0057]; fig. 7 & EP 1393649 A1 & DE 60324371 D & FR 2843863 A & AT 412350 T & ES 2315471 T	1,2 3,5 4
Y	US 2011/0211902 A1 (Marie Christine LE GUENIC), 01 September 2011 (01.09.2011), fig. 8 & US 2008/0014012 A1 & FR 2903584 A	3,5
Y	JP 15882 C1 (Kunitaro KOSUGI), 13 March 1909 (13.03.1909), fig. 2 (Family: none)	3,5

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C. ☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:
"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance
"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date
"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)
"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means
"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed
"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention
"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone
"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art
"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search	Date of mailing of the international search report
11 March, 2014 (11.03.14)	18 March, 2014 (18.03.14)
Name and mailing address of the ISA/ Japanese Patent Office Facsimile No.	Authorized officer Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.
PCT/JP2014/051976

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	CD-ROM of the specification and drawings annexed to the request of Japanese Utility Model Application No. 67202/1991(Laid-open No. 35008/1993) (Shigeru YAITA), 14 May 1993 (14.05.1993), paragraph [0004]; fig. 1 (Family: none)	5

国際調査報告

国際出願番号　ＰＣＴ／ＪＰ２０１４／０５１９７６

Ａ．　発明の属する分野の分類（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A45D34/04(2006.01)i, B43K8/20(2006.01)i

Ｂ．　調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（ＩＰＣ））

Int.Cl.　A45D34/04, B43K8/20

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	１９２２－１９９６年
日本国公開実用新案公報	１９７１－２０１４年
日本国実用新案登録公報	１９９６－２０１４年
日本国登録実用新案公報	１９９４－２０１４年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

Ｃ．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
X	US 2004/0129284 A1 (Aline Abergel) 2004.07.08, 段落	1,2
Y	[0006],[0046]-[0049],[0057],第７図 & EP 1393649 A1 & DE	3,5
A	60324371 D & FR 2843863 A & AT 412350 T & ES 2315471 T	4
Y	US 2011/0211902 A1 (Marie Christine LE GUENIC) 2011.09.01, 第８図 & US 2008/0014012 A1 & FR 2903584 A	3,5
Y	JP 15882 C1 (小杉國太郎) 1909.03.13, 第２図（ファミリーなし）	3,5

☑　Ｃ欄の続きにも文献が列挙されている。

☐　パテントファミリーに関する別紙を参照。

＊　引用文献のカテゴリー
「Ａ」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「Ｅ」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「Ｌ」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）
「Ｏ」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「Ｐ」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願の日の後に公表された文献
「Ｔ」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「Ｘ」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Ｙ」特に関連のある文献であって、当該文献と他の１以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「＆」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日	国際調査報告の発送日
１１．０３．２０１４	１８．０３．２０１４

国際調査機関の名称及びあて先
日本国特許庁（ＩＳＡ／ＪＰ）
郵便番号１００－８９１５
東京都千代田区霞が関三丁目４番３号

特許庁審査官（権限のある職員）　３Ｒ　９４３３
大谷　謙仁

電話番号　０３－３５８１－１１０１　内線　３３８６

Ｃ（続き）．　関連すると認められる文献

引用文献のカテゴリー＊	引用文献名　及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する請求項の番号
Y	日本国実用新案登録出願 3-67202 号(日本国実用新案登録出願公開 5-35008 号)の願書に添付した明細書及び図面の内容を記録した CD-ROM（矢板茂）1993.05.14, 段落【０００４】、図１（ファミリーなし）	5